平成23年11月10日発行　毎月1回10日発行　第64巻第11号

日本消防

● 第20回全国女性消防操法大会の開催
● 正副会長・地震等防災対策委員会東日本大震災現地調査報告

11
2011

日本消防　CONTENTS

2011 11
Vol.64 No.11

口　絵　第17回全国女性消防団員活性化　香川大会開催　H23.11.11（金）～12（土）
平成23年秋の叙勲伝達式（消防関係）　H23.11.8日（火）　於　ニッショーホール
第26回　日中消防友好調査団調査　H23.10.21（金）～10.28（金）
（北京、アモイ、南平、福州、香港）

巻頭言　「時代に対応した消防団活動」……財団法人　静岡県消防協会　会長　今関　正興　……1
東日本大震災全国消防団報告研修会
報告⑸「宮古市消防団　第20分団出勤の記録」……岩手県宮古市消防団　分団長　中野　規男　……3
平成23年7月　新潟・福島豪雨活動報告～脳裏に蘇る7年前の記憶～
……新潟県　三条市消防団　団長　長谷川　作雄　……9
第20回全国女性消防操法大会　……神奈川県横浜市にて開催!　…11
正副会長・地震等防災対策委員会　東日本大震災現地調査（宮城県）報告　…財団法人　日本消防協会　…18
特別表彰「まとい」を受章して「はばたけ　未来へとどけ　東北の地へ」
……埼玉県所沢市消防団　団長　関根　一彌　…22
特別表彰「まとい」を受章して「安心して暮らせる地域づくりを目指して」
……群馬県昭和村消防団　団長　竹吉　弘行　…24
東西南北（福井県）「ものづくりの街　鯖江を支える、消防団」
……鯖江市　鯖江消防団　団長　加藤　治　…26
東西南北（宮崎県）「市民の生命・財産を守る宮崎県小林市消防団」
……小林市消防団　団長　川野　三男　…28
東西南北（山形県）「限りない、市民の安全・安心のために」…東根市消防団　団長　植松　富士雄　…30
東西南北（鳥取県）「安心・安全で住みよいまち」……日野町消防団　団長　藤原　洋一　…32
東西南北（京都府）「20消防団で、わが町の安心・安全を」
……京都府消防協会　舞鶴市支部長　小山　勝巳　…34
シンフォニー（広島県）「女性消防団ならではの活動を目指して」
……尾道市消防団　因島分団　分団長　木戸　奈美江　…36
シンフォニー（愛媛県）「地域と共に支え合う活動」
……西条市消防団　団本部女性部　部長　宇佐美　友子　…38

頑張れ！少年消防クラブ（高知県）「高知県消防操法大会での「軽可搬ポンプ操法」披露」
……梼原町女性消防隊　分隊長　川上　まゆみ　…40
防火ポスター最優秀賞
京都府宇治田原町立宇治田原小学校　垣口侑飛さんの作品が選ばれました。
……生活協同組合　全日本消防人共済会　…41
雪害に対する備え　……総務省消防庁　防災課　…43
うちの名物団員　……44
消防団の広場（愛知県）「消防団員被災地活動調査」を終えて　…北名古屋市消防団　団長　中山　金一　…46

12月の日本消防協会関係行事
編集後記

表紙写真説明

「フローランテ宮崎」

フローランテ宮崎は、四季折々の花と緑を楽しむことができる都市緑化植物園で、園内には趣向を凝らした様々なエリアが設置されており、世界に誇れる「花のまちづくりの推進拠点」として多くの皆様に潤いと安らぎを与えております。

写真の芝生広場は、１年中青い芝生を維持しており、子供から大人までが寝転んだり、裸足で走り回ったり、リラックスした時を過ごせる快適な空間です。　（宮崎県宮崎市）

第17回　全国女性消防団員活性化香川大会開催

平成23年11月11日（金）～12日（土）

平成23年11月11日（金）香川県高松市「アルファあなぶきホール」で第17回全国女性消防団員活性化香川大会が盛大に開催され、全国から約2,500名の女性消防団員等関係者の方々が参加されました。

※ 内容の詳細については、次号以降に掲載を予定しています。

大会旗入場

パネルディスカッション

平成23年秋の叙勲伝達式（消防関係）

平成23年11月８日（火）　於　ニッショーホール

第26回　日中消防友好調査団調査

平成23年10月21日（金）～10月28日（金）

（北京、アモイ、南平、福州、香港）

南平市消防支隊視察

巻頭言

「時代に対応した消防団活動」

財団法人　静岡県消防協会　会長　今関　正興

今年は、３月11日に発生した「東日本大震災」だけでなく、その後各地で、豪雨や大火災が発生し、我々消防団員にとって、心痛むことの多い年となりました。

被害に遭われた地域の皆様には、心からお見舞い申し上げるとともに、亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。

さて、静岡県は、日本のほぼ中央、太平洋に面して位置し、東西155㎞、南北118㎞、面積7,780㎢の県土は、海、山、湖などバランスに富んだ自然に恵まれ、日本の縮図のような風土を有しています。

中でも、静岡県だけでなく日本のシンボルとなっている富士山については、先般、ユネスコ世界文化遺産登録に向けて、政府が推薦書の暫定版を提出し、その行く末に期待をしているところです。

こうした環境の中で活動している本県消防団は、35団、21,000人余で構成し、郷土愛護の精神のもと、地域の安心・安全を守るために、日々奮闘しています。

しかしながら、昨今の全国的な傾向と同じく、団員の減少と確保には頭を悩ませていますが、その一方で、女性消防団員が着実に増えているのは、うれしい傾向です。

昨年度末には、35団中22団に女性団員が在籍していましたが、今年度はさらに２団で、新たに誕生することになっています。

数の増加だけではなく、意欲が高く行動も積極的であり、こうした状況を鑑みると、活動内容や範囲について、従来の概念にとらわれず、新たな活躍の場を提供していく必要があるのではないかと、昨今感じています。

また、団員の確保については、若い力の導入も課題となっています。

少子化や、住居地を離れて働く勤労者が多くなっている中では、なかなか難しい問題ですが、本県では昨年度から、県とともに大学生への働きかけを始めました。

具体的には、年度当初、各大学のキャンパスに出向き、パンフレットをグッズとともに配布し、消防団への理解と入団を呼びかけました。

女性の入団と違い、こちらは目に見えた成果が上がっていませんが、人の意識を変えるには時間が必要であり、将来への布石と考えて、地道に取り組んでいきたいと思っています。

さて、冒頭に述べたように、今年は地震への対応が問われた年でしたが、本県では、昭和51年に、駿河湾を震源とする大地震が明日起きても不思議ではないという、「東海地震説」が発表されたのを契機に、地震

対策を緊急かつ重要な課題として取り上げ、官民協力して対策を進めてきました。

行政としては、県が「静岡県地域防災計画東海地震対策編」の策定や、「地震対策推進条例」の制定などを行い、これらに基づいてさまざまな施策を実施してきました。

こうした動きに対応し、地域では、自主防災組織の育成・活性化、自主防災リーダー等の人材育成などに協力し、そうした活動に消防団も積極的にかかわってきました。

具体的には、本県で毎年12月の第１日曜日に行っている「地域防災の日」の避難・救護訓練や、１月17日の「防災とボランティアの日」の活動などにおいて、消防団は「地域の頼もしい力」となるべく努めています。

しかしながら、今回の大震災の被害を見聞きすると、これまでの訓練や準備にさらに改善を加え、より実効性のあるものにしていかなければならないと痛感していますが、そうした新たな対応の兆しとなる動きも、すでに出てきています。

磐田市消防団では、発災直後における迅速な初期対応の重要性を鑑み、消防団が中核となった地域ぐるみの活動を推進すべく、車のジャッキやのこぎり、ハンマー等を使用した救出法を策定しました。また、裾野市消防団では、倒壊家屋の診断に消防団が協力する方法を検討中です。

災害時には、自助・共助・公助の３つがバランスよく機能する必要がありますが、こうした動きを参考例として、今後は時代に対応した消防団の活動範囲や存在価値を考えていくことが、必要であると思っています。

ところで、消防団が活動するにあたっては、環境づくりも重要です。とりわけ、最近増加している被雇用者、いわゆるサラリーマン団員への配慮が必要と感じていました。

こうした中、本県では、今年３月の県議会において、議員提案により「消防団の活動に協力する事業所等を応援する県税の特例に関する条例」が成立するという、うれしいニュースがありました。

これは、通称「消防団支援条例」と言われ、一定の条件を満たす法人・個人事業者に対し、税金を軽減するものです。

全国初というわけではなく、金額も大きな額にはなりませんが、消防団を側面から支援していただけるものと感謝し期待しています。

こうしたさまざまなことに思いを馳せると、消防団の重要性や周囲からの期待の大きさは変わらなくても、社会環境や人々の意識は時代により変わりつつあり、それらに対応していく必要性を感じています。

そのためにも、全国の仲間の皆様と情報交換や意見交換をするとともに、このたびの大震災で、勇気と使命感のもとに行動して亡くなられた消防団員の、尊い命を無駄にしないよう気持ちを新たにして、消防人の道を歩んで行きたいと思っています。

前号より引き続き、「東日本大震災全国消防団報告研修会」をお送り致します。

東日本大震災全国消防団報告研修会　報告(5)

「宮古市消防団　第20分団出勤の記録」

岩手県宮古市消防団　分団長　中野　規男

※本稿は、研修会での報告内容を掲載しております。

岩手県宮古市消防団第20分団分団長中野規男です。よろしくお願いいたします。

発表項目でございますが、５つに分けてございます。正規の被害状況、地震直後の活動状況、被災翌日以降の活動、それから遺体捜索活動状況、その他、以上５項目で、ご説明させてもらいます。

宮古市の位置でございますが、岩手県沿岸ほぼ中央に位置し、本州では最東端に位置する。東は太平洋に面しその海岸線にはリアス式海岸の壮大な光景が広がる。津軽石地区は宮古市市街地から約８km南側に位置しております。サケの遡上で名高い津軽石川流域でございます。これが宮古市の位置でございます。

地域の被害状況でございます。宮古市死者420名、津軽石地区が48名、負傷者33名、津軽石地区はゼロでございました。行方不明者宮古市170名、津軽石地区１名となってございます。

地域の被害状況でございます。家屋等の被害状況でございますが、全体の中から津軽石地区を報告させていただきます。合計で宮古市全壊が3,669棟、津軽石地区426棟。半壊、宮古市1,006棟、津軽石地区136棟。一部破損、宮古市176棟、津軽石地区は57棟。床上浸水、宮古市1,760棟、津軽石地区287棟。床下浸水宮古市323棟、津軽石地区56棟。合計で被害数が6,934棟、津軽石地区はそのうち962棟でございます。

宮古市消防団の被害状況でございます。現職分団員数1,307名でございまして、分団数が46分団。殉職者６名、行方不明者11名。ポンプ被害７台、小型ポンプ被害12台、防災行政無線被害同報系59件となっております。

20分団員の被害状況でございます。分団員数は23名。死者・負傷者・行方不明者はゼロでございます。自宅流出が５件。全壊９件、半壊７件、被害なし２件でございました。

地震直後の活動状況でございます。津軽石川水門は、河口より約200m上流に位置しております。水門の制御機がある遠隔装置制御室は、１km上流に位置されております。この線が45号線でございます。

これが平成19年３月に完成しました津軽石川水門でございます。

構造主要諸元	
水門全長	189.00m
カーテンウォール高	＋ 8.50m
水門ゲート高	＋ 4.09m
防潮堤高	＋ 8.50m

岩手県で２番目に大きい水門でございます。できてから５年目で、最新鋭の遠隔装置を備えた遠隔制御でもって降下できる水門となってございます。水門の高さは7.76mですけれども、明治三陸

津波の平均の高さで設計された8.5mの上屋をもつ水門でございます。

地震直後の活動状況ということで、このように記載してみました。それに対応して、当日の私の行動内容について報告させていただきます。

３月11日、地震発生時、そのとき家に私はいました。地震を感じ津波を想定し、車で屯所へ向かいました。消防ポンプ車には分団員が乗車し、屯所で待機しておりました。まずポンプ車に乗りまして、津軽石川水門を閉鎖することを指示、そして津軽石川水門へ向かいました。私は１人、津軽石川水門で降りて、14時55分ごろですか、自分は水門の中へ入ったわけでございます。片方の車には、他の水門扉門を、３ヶ所あるわけですが、その水門の閉鎖に向かわせました。

これが津軽石川水門の制御室の遠隔装置でございます。

ここに遠隔装置でもって降下する一斉降下、あるいは大津波警報の発生放送する機材がございます。ただ当日、この機材が施行されないということか、動かなかったのです。普段であれば、マニュアルどおりにスイッチを押して、自動で放送される水門閉鎖放送が始まるわけなのですけれども、水門の閉鎖放送が始まらないと、一斉降下操作のスイッチが入らないというような装置なのです。放送が約７分かかるのです。今から大津波警報が発令されましたので、水門を閉鎖しますから、水門上に、人はいないでくださいというような放送がされまして、それが放送されないと自動降下がスイッチを押しても降りない、と…。

一斉降下を断念し、水門の上屋にある個別に手動で降ろす水門のスイッチがあるというのを聞いておりましたので、これが大津波警報の放送スイッチです。これがスイッチを押しても、全然起動しない。

全然遠隔装置の方は動かないということで。上屋の方に行って操作をするというのは、今までも訓練していたのですけれども、訓練では確かに自動降下は降りました。ところが、この間の地震の時にはそれが一切機能しなかったということでございまして。それで私は上屋から操作しようと、制御室から水門の上屋の方へ移動するということを判断し、そして機械室から出た時に、ちょうどポンプ車が他の水門閉鎖を終えて制御室に向かってきたのです。それが大体15時15分ごろ。45号線沿いの上屋にスイッチがあるということを聞いていたので探したのですけれども、そこにはスイッチはない。２号上屋の方へ行ってスイッチを発見し、何とか降下をさせることができた。

これが上屋の方のスイッチです。

ここで上げ下げをするのですけれども、途中で止まって、動かなかったのです。このスイッチを、降下スイッチを押して、この扉を閉めますと、自動降下が止まる仕組みだったのです。何で止まるのか、操作の方法も聞いてないし、何の訓練も受けてなかったので、何が何だか分かんないと。たまたま、この扉を開けたり閉めたりしているときに、ここの表示が遠隔になったり手動になったり、切り替わることが分かった。この扉を開けたままでなければ降下できないと、いうのが分かったわけなのです。

そして１門を閉めて、２門目は、上屋に上がった団員とともに、この締め方で降下させてという

ようにして、１号建屋から７号建屋まで随時閉めていったわけなのです。その時間が、だいたい15時25分ぐらいで降下が終わったわけです。

その時に７号水門のキャットウォークから宮古湾入口を見ると、閉伊崎（へいざき）付近の雲行きが悪い、何かおかしいというのを感じまして、もしかして大津波かと思いまして、団員に国道45号線の水門に移動するように指示し、キャットウォークを１号水門に向かって走っていた。１号水門に到着したとき、宮古湾の方を見ると、高浜・金浜という集落があるわけなのですけれども、高浜方面で水飛沫が上がるのを見た。津波の到来を感じました。ですが、それから高台に避難するには時間的に間に合わない、下手をすれば、波に飲み込まれる危険性もあるということで、その上屋に留まることにし、もう１人の分団員とともに上屋に避難することを試みた。

これがそのときの写真でございますが、この堤防の高さが8.5mございます。

画面奥のここの水門、土谷川水門と言うのですけれども、これは浜の方の突端にあるのです。この水門の高さが大体12mぐらい、水面から12mぐらいあります。

ここからちょっと動画をご覧になってください。

津波襲来、これが第１波の津波の襲来です。この後が、さらに２波・３波の津波でございます。水門を閉め終わったあたりで、津波が押し寄せてきているのが、こちらからは見えなかったのですけど、見えた時には、間に合わないと。

これが河口なのですけれども。これが、津軽石側に向かってくる津波第１波でございます。その後ろが第２波。この撮影は水門上にある監視カメラの映像でございます。ここにも第２波が。これが非常に大きな津波でした。もう、運動公園の8.5mの防波堤を乗り越えています。

ここが、今、画面の下の方が水門上屋の位置でございまして、その上にカメラございますが、だんだんカメラにも近くなってきているのです。このときに非常に大きい津波を感じ、我々は建屋の屋根に避難しました。ここにぶつかっている、ここが大体12mくらいの高さでございます。さらに大きいのが、こっちにあるのです、これ。これがもうひとつ土谷川の方から撮りました動画でございます。

だいたい時間が15時29分。第１波がこれですね。第２波はこれ。この波がこの堤防も超えてくるのです。

土谷川から見ました、現在の位置でございます。

この辺も津波後の状況でございます。

この時間が大体10分から15分くらいだと思うのですけれども、この襲来が続いたあと、15時50分ごろですか、津波が収まって上屋の屋根の方から降りて、そして建屋に戻って、水門を全閉鎖しているものですから、水が退けないということで、水を退くことを試みました。

水門の開放を試み、各水門にガソリンエンジンの巻き上げ機があるので、それで上昇させようと思ったのですけれども、７門それぞれにある巻き上げ機の３門で操作を試みましたが、どれもこれも作動しないということで、開放をあきらめたわけなのです。

１号建屋に戻りましたら、１号建屋の方に照明用発電機が１機、それから、もうひとつ大きな発電機があったのです。

それでその発電機は何の発電機なのかと思い、開けてみたら動力用の発電機でした。その発電機

を何とか始動してみましたら、各水門に電気が通りまして、巻き上げ機を動かすことができて、その水門を、１門から、１門・２門・３門までは30cmずつ、４号・５号は川底になる関係で50cm開放し、６号・７号も同じく30cm開放し、そして河川内にある津波の海水を何とか水面から開放しました。

これがその発電機です。

この発電機が、動力用発電機だということも、そもそも、我々消防団には、こういうものがあるということも聞かされておりませんでしたし。これが手動操作用の発電機なのですけれども。

エンジンをかけて、一つひとつ下ろすことになっているのですが、巻き上げ機があるということも聞かされておりましたし、今まで１回も始動をさせたこともございません。配電盤についても、切り換えスイッチがあるということも、初めて知ったのです。だから、トラブルがあるときはトラブルが続くのかな、と我ながらその時は、そう感じました。

水門を開放した状態で、４時半ごろまで河川監視をしておりました。そうしていると、金浜・高浜の方から４、５人の作業員が45号線を歩いてきました。「あなた方どこから来たの」と聞くと、「高浜から来ました」と。「高浜も大変な被害です。私たちは下水道工事をやっていたのですけれども、重機も流されれば、車も流され、何もなくなった。帰る車がないので、歩いて帰っている」と言うようなこと。「金浜も大変なことで」と言う。「どこまで行くの？」と言うと、「山田まで行きます」と。山田まで行くとなると大変だな。でも、山田まで行くのであれば、歩いていくしかない。作業員の方々は立ち去ろうとしていたのですけれども、その時、水門閉鎖へ一緒に行ったもう１人の分団員に対して、作業員の方たちと一緒に行って、暗くなるのでとりあえず懐中電灯を持って、津軽石地区や学校避難所の状況確認や安全確認をしてから迎えに来い、という指示をしました。もし、もう一度津波が来るようなことであれば、自分はここにいて閉鎖作業をするから、とりあえず屯所に戻って懐中電灯を持って、分団員２、３人連れて戻ってこいということで帰したわけなのです。１人で行かせることは大変問題がありそうだったので。そのままその建屋に１人残って、いつ迎えが来るのも分からないまま待っていました。

夜暗くなってから、45号線を今度は津軽石方面から金浜の方面に歩いてくる方が３名ほどいたのです。「これから先は、とりあえず被害が大きいようで、水もあるようだから気をつけて行かないとだめですよ」ということで指導したのですけれども、「何とか行ってみる」ということで行ったのですけれども、「行けなかった」ということで戻ってきました。

津波襲来の15時33分、津軽石方面に向かう橋があるのですが、橋のところまで津波が襲来しておりました。

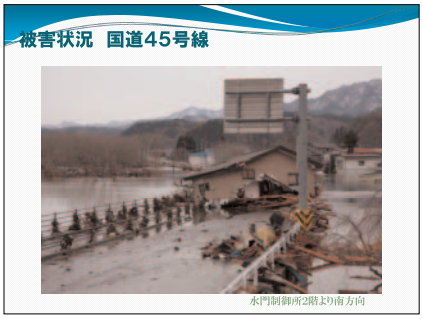
これが重茂方面へ行く橋で「稲荷橋」という橋なのですけれども、ここに水門がございます。この水門も何とか壊されないで済んだのですけれども、この橋より津波の方が高かったと。これが河川なのです。

これが津波襲来のとき、こっちが現在。45号線も通行不可能になっております。

衛星から見た津波襲来前の様子。こちらが津波襲来後の状況でございます。この辺も家がなくなっています。

津軽石川を挟んで、赤前・津軽石と別れているのですけれども、赤前地区の被災前でございます。

この辺がぜんぜん家がございません。45号線には、家の２階部分が打ち上げられています。



これが津軽石の駅前に停車しておりましたディーゼルカーが押し流されて、くの字になっています。

ここが水門、ここがひとつの集落で、鉄道がここを通っていたわけです。ここが45号線。

これが水門の位置で、津波の水位はここまで到達してございます。

ここが川向かいの栄通り地区の被害状況でございます。２階が飛ばされています。

こういう状態、海水が入ったまま、水浸しになってございます。

当時の水位の状況がここまで、２階建ての家が残ったのですけれども、ここまで水が入ってきた。

次の日、12日から、早朝、生存者救助のための活動です。

盛岡西消防署レスキューと宮古市消防団20・21・23・津軽石地区には、４分団があるわけで、赤前地区の分団は赤前地区を、津軽石地区の方を20・21・23分団合同で救助をしました。

これが救助している状況です。

まだ水位が下がってないということで、土谷川水門の上げ下げは22分団が管轄だったので、救助に行くにも、こういう状態で水が抜けてないからと、22分団の方へ連絡したのです。「水門の開閉どうなっている？」ということで。水がいっぱいで、水門まで行けないので、もし20分団の方で開放できるのであれば、開放してくれないかということで連絡がありました。この水を抜かないと赤前の方は何もできないと連絡を取ったら、そういう依頼を受けました。津軽石川水門から分団員４名で土谷川の水門に向かった。津軽石川水門と同じく小さな引き上げ機があるのですけれども、その巻き上げ機もエンジンの始動ができなくて、水門の開放は無理かなと思ったのですけれども、配電盤を見ましたら、配電盤に動力電気が来ていることが確認できまして、それで開放することができました。２門ある水門なのですけれども、１門は流木がかかって一切だめ。

それで、２門目の方を1.5m開放して、なんとか開放して水を出すことができた。午後の１時過ぎには１ｍくらいにまで水位が下がったので、遺体捜索・救助活動もできるようになり、自力で避難することもできるようになりました。なんとか排水もうまくいったということでございます。

次の日の３日目、13日は早朝から遺体捜索でございます。陸上自衛隊が我々津軽石地区にも来たのです。

これが遺体捜索。捜索中にも、津波警報が発令されると、避難してという状況でした。

水門の開放の高さはそのままの位置で、物が海の方へ出ないようにしておきました。

屋根を壊しての捜索をしたりもしました。

以上を持って、宮古市消防団20分団の活動記録の報告を示させていただきます。

ありがとうございました。

平成23年7月　新潟・福島豪雨活動報告
～脳裏に蘇る7年前の記憶～

新潟県　三条市消防団　団長　長谷川　作雄

当市は、新潟県のほぼ中央に位置し、東部は緑豊かな山林がやがて山岳となり福島県境に至っています。そこを水源とし、普段は私たちに豊かさと潤いをもたらす故郷のシンボル清流五十嵐川が市域を東西に横断し、当市の西側を南北に流れる日本一の大河・信濃川と合流しています。信濃川の流域には沖積平野が広がり、桃・梨をはじめとする果樹栽培や稲作を中心とした豊かな穀倉地帯が広がり、また、上越新幹線の燕三条駅と北陸自動車道の三条・燕ICが隣接するなど、産業・交通の要衝であると同時に、県央における中核都市としての機能と役割を担っています。

私の住むこの街は、平成16年７月13日、新潟県、福島県を襲った豪雨により、市の中心部を流れる五十嵐川の堤防が決壊し、死者９名と床上浸水５千棟以上という甚大な被害を被った。

当時の私は、三条市消防団の副団長として、水防活動の最前線に立ち、部下団員とともに積み土のうや月の輪といった水防工法を数えきれないほど実施し、市民の生命、財産を守るため迫りくる濁流と闘った。五十嵐川堤防上、激しく降り続く雨に打たれながらも懸命に水防活動を実施するなか、上流のダムからの緊急放流により濁流は一層その勢いを増してあちらこちらで堤防を越え始めた。

今にも溢れ出しそうな五十嵐川を監視する消防団員

堤防を越える濁流に身の危険を感じながら、数名の団幹部とパトロール中の警察官とで今後の活動について協議していたところ、対岸の堤防がごう音とともに瞬く間に決壊。最悪の事態となった。分水路の如く勢いをつけて街中に流れ込んだ濁流は全てを飲み込んでいった。これにより五十嵐川の水位は下がり始めたが、今度は水没地区における取り残された住民の救出活動が待っていた。ずぶ濡れになりながら助けを求める市民を何人も何人も救出し避難させた。消防団として、人員、車両、装備をフルに活用してできる限りのことは全てやった。昼夜を問わず３日間に亘る水害対応は気力も体力も限界であった。

雨も上がり、警戒体制が解除となり、復旧活動のため被災地区へ入った時、土砂と瓦礫にまみれ変わり果てた街のすがたに絶句した。

あれから７年。百年に一度と云われた豪雨がまたしても襲ってきた。

平成23年７月29日（金）、前日から断続的に降り続く雨音を少し気にしながら仕事中、午前10時頃から雨脚が強まり、作業場のトタン屋根を激しく叩きつける音がやけに気になる。その後も雨音は段々大きくなり、不安を感じ始めた午前11時過ぎ、消防本部から「市内各所で道路が冠水し住宅への浸水被害がある模様。地元消防団に出動を要請した。消防団長は本部に至急来てほしい」との連絡を受けすぐに向かった。車で移動中、市内の道路

がいたるところで冠水し、なかなか消防本部に到着できない。フロントガラスに打ちつける雨は益々強くなっている。消防本部に到着する間にも、助手席に置いた携帯無線機からは、山間部での土砂崩れ、五十嵐川上流域で支流が氾濫、孤立した集落から救助要請等の交信が否応なしに耳に入る。

消防本部に到着して間もない12時50分、五十嵐川の水位が上昇し一定の基準に達したため、消防団幹部に各地区各拠点への召集命令がかかった。消防本部内に設置された消防対策本部では次から次へと水防活動や救助の要請が入る。私は、消防団幹部の召集状況と被害状況を照らし合わせながら、焦る気持ちを落ち着かせ、団幹部と現在の活動状況を確認し、今後の活動方針を検討した。

13時25分、五十嵐川の水位が更に上昇したため、全消防団員に召集をかけた。また、市民に対しては避難準備情報が発令された。私は、出動可能となった分団・部から災害時要援護者の避難支援と同時に管轄区域の状況把握及び水防活動にあたらせた。

市内各地で中小河川の氾濫、崖崩れ、道路冠水、住宅への浸水など様々な被害が発生するなか、16時00分、五十嵐川の水位は堤防まであと僅かとなった。可能な限りの団員を五十嵐川堤防に集結させ、副団長ら幹部に現場での指揮を執らせ水防活動にあたらせた。消防本部で全体の指揮を執りながらも、7年前の悪夢が脳裏をよぎった。活動中の消防団幹部から「これ以上の活動は危険である」との報告を受け、最も危険と思われる場所で活動していた団員に対し撤退命令を下した。撤退

消防団積載車をフル活用した土のう搬送

夜を徹しての水防活動

すれば周辺地域への被害拡大は免れないことも分かってはいたが、危険を顧みず市民のため地域のために活動している団員の命には代えられない。苦渋の決断だ。

このまま降り続くと７年前の再現になると諦めかけていた時、奇跡が起こった。雨は小降りとなり水位が下がり、五十嵐川は落ち着き始めた。

翌日、五十嵐川の水位は下がってきたものの、信濃川の水位が上昇し堤防越水まであと僅かといった状態となったため、不眠不休のまま警戒にあたり街を守った。なんとか守り切った。

今回の水害では、降水量は７年前を大きく上回ったにもかかわらず、被害は最小限に食い止められたと思っている。その要因としては、７年前の水害後、新堤防の整備や防災無線の設置などハード面での対策を講じていただいたこと。また、災害対応マニュアルの策定とそれに沿った行動が日頃の訓練を通じてできたことが大きいと思う。また、７年前に水害を経験した市民の防災に対する意識が高くなっていることに加えて、この地域を守る消防職団員等防災関係者の水害に対する意識が高いことも要因の一つと自負している。

終わりに、日本消防協会をはじめ関係各位からのご支援ご協力に深く感謝申し上げるとともに、７年前に賜ったご支援に対しても改めてお礼を申し上げ、７・29新潟・福島豪雨の活動報告とさせていただきます。

第20回全国女性消防操法大会

神奈川県横浜市にて開催!

平成23年10月19日（水）神奈川県横浜市の横浜市消防訓練センターにおいて第20回全国女性消防操法大会（総務省消防庁、日本消防協会主催）を開催いたしました。この大会は２年に１回開催されるもので都道府県代表の女性消防隊44隊が出場し、熱戦が繰り広げられました。

◎　開会式

入場行進

開会宣言
（千葉とき子岩手県婦人消防連絡協議会会長）

内閣総理大臣優勝旗返還（岐阜県羽島市）

主催者挨拶（黄川田　徹　総務副大臣）

主催者挨拶（日本消防協会会長　高木繁光）

来賓祝辞（北村吉男全国消防長会会長）

歓迎あいさつ（大場茂美横浜市副市長）

競技上の注意（江村興治消防大学校長）

選手宣誓（岐阜県大垣市女性消防隊　石原隊長）

◎　操法競技

操法競技は、午前10時40分から開始。２コースに別れ熱戦が繰り広げられました。

操法開始報告

準備よし

操法開始

ホース延長

第 2 結合部へ

標的に向かって

筒先結合

放水

操法終了報告

◎　消防団多機能型車両訓練展示

操法競技終了後、表彰式までの時間を利用して、日本消防協会と消防庁が交付、貸与している消防団多機能型車両等（救助活動用の資機材を搭載した小型ポンプ積載車）を使用した訓練展示が行われました。

今回は、大地震により建物が倒壊し多数の住民が閉じ込められ、さらに火災が発生したとの想定で、神奈川県内の３消防団（茅ヶ崎市消防団・三浦市消防団・横浜市港北消防団：19名うち女性団員７名）が、それぞれ積載資機材を活用し、救助活動や応急救護及び消火活動等一連の活動を行い、消防団の幅広い活動の重要性と地域防災に果たす役割を広くアピールしました。

倒壊家屋に到着

ストライカーによる破壊（女性消防団員）

エンジンカッターによる切断（女性消防団員）

倒壊家屋からの救出

救出された人を安全な場所まで搬送（女性消防団員）

救出された人を安全な場所まで誘導（女性消防団員）

意識の確認（女性消防団員）

AEDを用いた救命処置（女性消防団員）

火災発生場所に向かってホース延長

火元に向かって放水

◎　表彰式、閉会式

第20回全国女性消防操法大会　優勝隊

岡山県　真庭市女性消防隊

消防庁長官表彰（準優勝隊：２隊）

日本消防協会会長表彰（準優勝隊：２隊）

日本消防協会会長表彰（優秀賞隊：３隊）

日本消防協会会長表彰（優良賞隊：６隊）

優秀選手表彰（10名）

閉会宣言
（樋口春子鳥取県女性防火・防災連絡協議会会長）

第20回全国女性消防操法出場表

出場順	1　コ　ー　ス		2　コ　ー　ス	
	本　部　席　側		応　援　席　側	
	都道府県	消防隊名称	都道府県	消防隊名称
1	兵庫県	豊岡市女性消防隊	奈良県	生駒南支部女性消防隊
2	岐阜県	大垣市女性消防隊	三重県	尾鷲市女性消防隊
3	沖縄県	ニライ女性消防隊	大分県	別府市女性消防隊
4	群馬県	渋川市女性消防隊	熊本県	美里町女性消防隊
5	埼玉県	熊谷市女性消防隊	秋田県	横手市平鹿女性消防隊
6	茨城県	北茨城市女性消防隊	北海道	鵡川女性消防隊
7	大阪府	枚方市女性消防隊	島根県	松江市女性消防隊
8	山梨県	市川三郷町女性消防隊	高知県	土佐清水市女性消防隊
9	香川県	坂出市女性消防隊	和歌山県	白浜町女性消防隊
10	福岡県	八女市女性消防隊	神奈川県	港北女性消防隊
11	東京都	新宿女性消防隊	千葉県	東金市女性消防隊
12	岡山県	真庭市女性消防隊	広島県	安芸太田町女性消防隊
13	福島県	出場辞退	山形県	山辺町女性消防隊
14	岩手県	出場辞退	愛媛県	松前町女性消防隊
15	山口県	下関市女性消防隊	栃木県	那須烏山市女性消防隊
16	佐賀県	多久市女性消防隊	長野県	佐久市女性消防隊
17	福井県	若狭小浜女性消防隊	長崎県	長崎市女性消防隊
18	滋賀県	長浜市新庄中町女性消防隊	京都府	京丹後市女性消防隊
19	鹿児島県	枕崎市女性消防隊	富山県	氷見市女性消防隊
20	新潟県	糸魚川市女性消防隊	鳥取県	福栄女性消防隊
21	青森県	青森市青桜女性消防隊	愛知県	半田市女性消防隊
22	静岡県	島田市女性消防隊	石川県	内灘町向粟崎女性消防隊
23	徳島県	小松島市女性消防隊	宮崎県	日南市女性消防隊
24	宮城県	出場辞退		

＊岩手県・宮城県・福島県については、東日本大震災に伴う諸事情により出場辞退

第20回全国女性消防操法大会成績順位表

順位	都道府県	消　防　隊　名	総合得点	タイム（秒）
優　勝	岡山県	真庭市女性消防隊	93.5	51.97
準優勝	熊本県	美里町女性消防隊	82.5	54.74
準優勝	新潟県	糸魚川市女性消防隊	82	57.41
優秀賞	愛知県	半田市女性消防隊	81	54.3
優秀賞	栃木県	那須烏山市女性消防隊	80.5	59.2
優秀賞	福岡県	八女市女性消防隊	80	54.79
優良賞	山口県	下関市女性消防隊	78	58.11
優良賞	愛媛県	松前町女性消防隊	76	55.07
優良賞	兵庫県	豊岡市女性消防隊	76	56.61
優良賞	島根県	松江市女性消防隊	75	59.62
優良賞	青森県	青森市青桜女性消防隊	72.5	56.2
優良賞	佐賀県	多久市女性消防隊	72.5	58.1

第20回全国女性消防操法大会優秀選手

	コース	都道府県	消　防　隊　名	選手名
指揮者	1	群馬県	渋川市女性消防隊	齋藤久美子
	2	山形県	山辺町女性消防隊	樋口　和美
1番員	1	新潟県	糸魚川市女性消防隊	佐藤　雅代
	2	長崎県	長崎市女性消防隊	大坪　祐子
2番員	1	岡山県	真庭市女性消防隊	佐山布久江
	2	栃木県	那須烏山市女性消防隊	平山　幸子
3番員	1	岡山県	真庭市女性消防隊	西田佳寿江
	2	熊本県	美里町女性消防隊	安部トモ子
4番員	1	岡山県	真庭市女性消防隊	瀧野　睦美
	2	神奈川県	港北女性消防隊	佐藤　光代

正副会長・地震等防災対策委員会
東日本大震災現地調査（宮城県）報告

財団法人　日本消防協会

正副会長及び地震等防災対策委員会委員により、平成23年７月６日、宮城県石巻市他において、東日本大震災の被害状況、消防団・消防機関の活動状況等について現地調査を実施、現地の市町村・消防関係者が出席し、正副会長同席の下地震等防災対策委員会を開催した。未曾有の大災害による被害は広範囲かつ甚大で、復旧復興が続く中での調査となった。以下のとおり調査結果を報告する。

１　日　時

平成23年７月６日（水）７：30～14：00

２　場　所

(1)　現地調査（７：30～12：30）
　　宮城県沿岸地域（石巻市、女川町他）及び内陸地域（名取市他）

(2)　地震等防災対策委員会（13：00～14：00）
　　石巻地区広域行政事務組合消防本部

現地調査（女川町）

現地調査（石巻市）

地震等防災対策委員会

3　調査の概要

仙台市を出発、初めに津波を堰き止めた仙台東部道路に向かい、名取市閖上（ゆりあげ）地区等の沿岸地域を調査した。

その後牡鹿郡女川町に移動し、同町役場の阿部企画課係長による説明を伴い、高台にある町立病院駐車場から中心部の被害状況を調査した。

次いで石巻市へ移動、沿岸の渡波地区を経由し、市立門脇小学校に到着、門脇石巻市石巻消防団長による説明を受けながら調査を実施した。

最後に、石巻地区広域行政事務組合消防本部にて地震等防災対策委員会を開催、星消防長及び髙橋石巻地区支部長（石巻市牡鹿消防団長）から被害及び活動状況の報告を受け、協議を行った。

4　現地関係機関による報告内容

⑴　被害状況について（平成23年６月現在）

○石巻地区広域管内（石巻市・東松島市・女川町の２市１町）

面積　724㎢

人口　21万5,991人（死亡　4,724人，行方不明　3,168人）

津波により113㎢が浸水、約６割が山林であることを考えると、半分以上が浸水したこととなる。更に地盤が70～80㎝沈下しており、市街地の２／３が水没、満潮時には冠水する地域がある。

・消防団（全９団）の被害状況

団員数　　3,175名（死亡　28名，行方不明　14名）

団施設　　281棟（全壊　92棟，半壊　６棟，一部破損　16棟）

団車両　　229台（ポンプ車　14台，積載車　61台）

・消防本部の被害状況

職員数　　353名（死亡　２名，行方不明　４名）

消防庁舎　14署所（全壊　５，床上浸水　３）

消防車両　　74台（被害　23台）

ア　石巻市

同市は、この度の震災による死者数が全国の市町村の中で最も多く、人口約16万人のうち約3,000人が亡くなられた。

海岸に近い地区の住民は避難をしたが、北上川河口から約５㎞上流にある釜谷地区では、今まで津波や高潮の被害がなかったことから多くの住民が避難せず家に残り、地区にいた200名中190名が犠牲となった。

また、市立大川小学校では、３階建ての校舎すべてが水に浸かり、全校児童108名についても７割近くが校庭に避難していたところ、津波に飲み込まれた。遺体の損傷が激しく、身元確認もDNA鑑定によらなければすでに困難となっている状況であり、調査日現在依然６名が行方不明であるが、40日間遺体は出ていないとのことであった。

石巻市役所の北上総合支所では、職員や避難住民等57名が流され、助かったのは３名のみであった等、行政も大混乱に陥り、防災関係機関で機能していたのは、消防本部と石巻赤十字病院だけという状態であった。

その赤十字病院においては、発災初期から災害医療体制に移行し、搬送されてきた全ての傷病者を受入れ、ほとんどの医療機関が診療不能に陥った石巻地区の医療を支えた。医師、救命士を全部ここに集めてトリアージし、急病人を全て二次病院に搬送した。１日平均1,000人が来院したが、急患はその３割。中でも石井医師のリーダーシップはすばらしく、役所機能がほぼ停止状態となったことにより、１週間で各避難所のデータを医師と病院事務員で調査した結果、各避難所が衛生面で問題があることが判明し、県に対して要望等を行い、医薬品や食糧等を調達した。また、消防署との連携についても良くとれた。

イ　東松島市

同市の人口は約４万人で、約1,000人の市民の方々が犠牲となられた。

鳴瀬地区の特別養護老人ホーム不老園では、入所者及び職員66名が津波で流された。

野蒜（のびる）地区では、JR仙石線も被災した。仙台～石巻間を結ぶ唯一の公共機関で、幸いにも乗客全員が乗務員の誘導によって付近の小学校に避難し、難を逃れたとのことである。

航空自衛隊松島基地では、滑走路がすべて浸水し、F2やF4等の戦闘機が20数機被害を受け、莫大な損害を被った。

特別養護老人ホーム「不老園」付近（東松島市）

ウ　女川町

同町では、人口約１万人のうち約1,000人の方々が死亡又は行方不明、住宅の約８割が倒壊する等甚大な被害を受けた。

同町の中心地では「津波避難施設」であるビルの屋上に避難したものの、多くが３，４階建てであったにもかかわらず津波の高さが上回り、多くの人々が犠牲になった。前述した地上高約20mの町立病院ですら１階部分まで水没し、２階に避難できた者が辛うじて助かったとのことであった。一方、周辺地域の部落の多くは山を控えており、そのような部落では男性が漁に出ていて高齢者ばかりであったにもかかわらず犠牲者がなかった。

また、昭和35年のチリ地震に伴う津波の後に造られた、全国でも数ヶ所しかない規模の津波防波堤についても、今回の津波により瞬時に破壊された。当時の津波の高さである5.6mを基準に造られたとのことだが、今回はその３倍を超える津波の高さであった。

女川消防署においては、全職員が一旦高台へ避難したが、同署が「津波避難施設」となっていたため、署長以下５名の職員が同署へ戻り、避難者を受け入れる準備をしていたところ津波が襲来した。署の屋上に避難したものの津波の高さが上回り、無線塔につかまり津波の衝撃に耐えていたが、200ｔ級の漁船が流れてきて無線塔に激突した。結果、署長以下３名の職員が死亡もしくは行方不明となり、残る２名も一命は取り留めたものの大腿部筋肉組織の大半を損失する等の重傷を負い、約600m流された場所で発見された。津波は激しく渦を巻いており、巻き込まれると体の自由は利かない。精神的に大きなダメージを受けた職員もおり、PTSD（心的外傷後ストレス障害）と診断された職員もいるとのことである。

(2)　消防活動について

沿岸地域の消防団（石巻市石巻、河北、雄勝、北上、牡鹿、東松島市及び女川町）は、発災当初水門等の閉鎖や避難誘導活動を実施した。また、石巻地区で火災が発生したため消火活動も併せて行い、その後津波が襲来、人命救助や新たな火災に対応した。２日目以降は、消火活動の継続、倒壊家屋から等の人命救助、警戒活動等を実施した。

中でも石巻市立門脇小学校一円においては、海側から燃えている住宅や車が次々と流れ着き、瓦礫に延焼し大規模な火災が発生、10日間に渡り延焼した。緊急援助隊が到着するもポンプ車は瓦礫で近づけず、消防団の可搬ポンプを集め、ホースを延長して消火、何とか市街地への延焼は食い止めた。活動要領については、津波の被害を受けなかった高台の上から放水し、下からもボートに可搬ポンプを積んで放水した。小学校の児童は、教壇をはしご代わりにして裏の山に脱出し、全員助かった。

また、消火活動だけでなく屋根の上にいる人の救助にも当たったが、通信手段がなく、互いに連絡が困難な中での活動であった。

内陸部の消防団（石巻市河南及び桃生）については、団員の被害はなかったが、震災当日から被害状況の調査、避難所開設準備の支援、食糧・燃料等必要物資の調達、警戒及び交通整理等を実施した。

調査日現在においても、依然行方不明者の捜索等を継続中であった。

火災現場・住民救出作業中（石巻市門脇地区）

緊急消防援助隊新潟県隊は、最大時救急車40台、ポンプ車100台の体制で、発災の14時間後に部隊が到着、自衛隊よりも早かった。新潟県隊だけがタンクローリーを伴って来た。防災ヘリも、宮城県内のヘリポートは使用不能であったため、山形県のヘリポートを使用した。

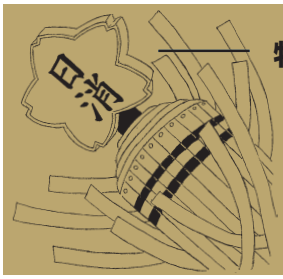
ガソリンの補給は、総務課長と予防課長が直接ガソリンスタンドに協力を要請し、スタンドを早期に確保できたため、優先して給油してもらえたが、住民の方々が順番に並んでいる中での給油は胸が痛んだ。新しいスタンドは手回しのポンプがなかった。

女川原発においては、制御棒の配電盤から火災が発生したが、再就職していた消防職員OBが消火し事なきを得た。東北電力社員は空気呼吸器等の取扱いが出来ず、火点に近づけなかった。

⑶　今後の課題等について

この度の犠牲者には、一旦は避難場所に逃げたものの、家族や同僚の安否を確認するために戻った結果津波に飲み込まれた人々も多く、今後の避難対策に生かさなければならない。また、女川町役場では津波警報について、当初６ｍ程度の津波であると発表していた。その後気象庁により10m以上との情報を得たが、その直後に停電してしまったため、防災無線以外の広報手段が取れなくなった。しかも防災無線の予備電源の容量も限度があり、町民に対して十分に周知ができなかったとのことである。初めから津波が10m以上であると発表して欲しかったと考えるが、昨年２月28日の津波の時も６ｍと広報していたところ、実際は１ｍ程度であったこともあり、津波の高さは遠くから見ていても分からず、判断が相当難しい。

なお、女川町復興計画策定委員会では、津波で横倒しになったビルについて、津波の脅威を後世に残し、また、津波により鉄筋コンクリートの建物が倒壊した例は世界的にも珍しく、今後津波被害を軽減する建築の基準を作る上で貴重な研究資料となるという学者の提案も取り入れ、保存していく方針であり、資金を集める募金活動も始めたとのことである。



特別表彰「まとい」を受章して

「はばたけ　未来へ　とどけ　東北の地へ」

埼玉県所沢市消防団　団長　関根　一彌

はじめに

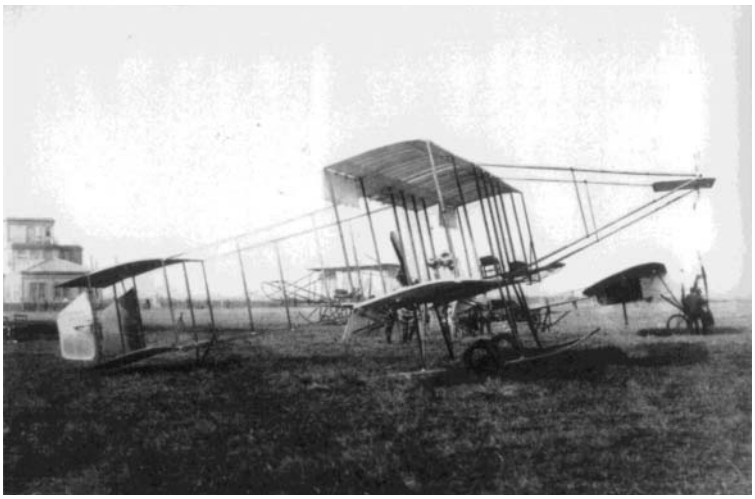
平成23年２月24日、日本消防会館「ニッショーホール」において、第63回日本消防協会定例表彰式が厳粛かつ盛大に挙行され、消防団最高栄誉であります、日本消防協会特別表彰「まとい」を拝受いたしました。

市制60年を迎えた所沢市にとって、念願で有りましたこの栄誉有る最高の章を全国数ある消防団の中から受章出来ましたことは、我々消防団はもとより、所沢市消防関係者にとりましても、このうえもない喜びであり誇りであります。これもひとえに、日本消防協会をはじめ、埼玉県消防協会、市民の皆様及び関係各位のご支援とご協力の賜であり深く感謝を申し上げます。また、長い歴史と伝統を築きあげてこられました、諸先輩方のご尽力があればこその受章であると共に、その伝統をしっかりと受け継ぎ、消防団活動に邁進している消防団員とそのご家族の皆様にも重ねて感謝申し上げます。

所沢市の紹介

所沢市は、東京30㎞圏内にあり、武蔵野台地のほぼ中央、多摩北部に接する埼玉県南西部に位置し、人口は34万人に達しています。

また、市内のほぼ中央に位置する県営所沢航空記念公園には、明治44年４月１日、臨時軍用気球研究会所沢試験場が開設され、幅50m、長さ400mの滑走路と格納庫、気象観測所を備えたわが国初の飛行場が誕生し「アンリファルマン」「ハンス・グラーデ」「ブレリオ」「ライト」の４機が備えられました。同年４月５日には所沢飛行場初の演習飛行が行われ、アンリファルマン機が高度10m、飛行距離800m、飛行時間１分20秒を記録し、わが国初の飛行場での初飛行となりま



した。その後終戦を迎えるまで、所沢は日本の航空技術の発達に貢献しました。この歴史的経緯により、所沢は「航空発祥の地」と言われており、今年は航空発祥100周年を迎えました。

所沢市消防団の紹介

所沢市消防団は、昭和22年４月30日　消防団令施行に伴い警防団から消防団と改称し、今年で64年目を迎えました。現在、１本部10個分団で構成し、団員は条例定数325名（うち20名女性）、消防ポンプ自動車10台を保有しています。複雑多様化する火災等の災害に迅速かつ確実に対応するため、毎年、消防署・消防団非常招集訓練を実施し署団の連携強化を深めています。

また、消防技術の維持向上のため、ポンプ車操法大会を毎年実施しており、団員は約４ヵ月に亘り訓練に励みます。平成18年には全国消防操法大会に出場を果たし、３番員は最優秀賞に輝きました。同年10月１日には所沢市として初の女性団員を採用し、単身高齢者防火訪問や救命講習などの市民指導を行っています。一昨年からは、

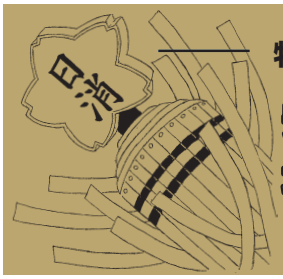
人形劇

女性消防団員の手作りによる幼児に対する防火防災人形劇を行い消防団活動の幅を広げました。更に昨年は、消防団が小学校４年生に対し消防団の歴史や消防団の仕事について「見て、聞いて、触って」をコンセプトに地域防災教育を実施し、新たな分野への挑戦をしています。

おわりに

所沢市は、自然災害などが少なく、防災に対する意識が希薄になりがちですが、当消防団では、地域の自主防災会訓練や清掃活動・イベントなどへの参加を通して、防火防災普及活動を実施するなど、各分団独自の広報活動を積極的に展開し、消防団ならではの地域に密着した活動を実施しています。しかしながら、この度の東日本大震災において、お亡くなりになられた同士の無念を思うと、平穏に甘んじることなく、まだまだこれからと気持ちを律し、未来に向って大きくはばたき、航空発祥の地に相応しい消防団を目指し、同士の熱い思いの分まで、地域のために全力を尽くす所存でございます。

地域防災教育



特別表彰「まとい」を受章して

安心して暮らせる地域づくりを目指して

群馬県昭和村消防団　団長　竹吉　弘行

はじめに

平成23年２月24日、日本消防会館「ニッショーホール」で行われた第63回日本消防協会定例表彰式において、消防団として最高栄誉である特別表彰「まとい」を受章いたしました。

全国の消防団の中からこの栄誉ある賞を受章できましたことは、我々消防団員はもとより、昭和村の消防関係者にとりましても、この上ない喜びであり、誇りとするところであります。

これもひとえに、日本消防協会をはじめ、群馬県、群馬県消防協会並びに消防関係者各位の温かいご支援、ご協力と昭和33年の本村消防団の発足から永い歴史と伝統を築き上げてきた諸先輩方の功績、現在共に活動している団員各位とその陰で支えてこられた、ご家族のご理解、ご協力あっての賜と深く感謝するところであります。

昭和村の紹介

昭和村は、群馬県の北部に位置する利根郡の最南端にあって、赤城山の北西麓・片品川左岸に位置する赤城高原地帯を扇状に形成し、河岸段丘が散在します。

村民運動会

また、境界を北から北西へ片品川が流れ、西端を南流する利根川に合流し、周囲には、谷川岳、武尊山を望めるなど、四季折々の風景は、情緒豊かで、自然に恵まれた村であります。

村の基幹産業は農業で、村の面積の約４割を田畑が占め、生産量「日本一」を誇るこんにゃく芋を始め、レタス、キャベツ、ほうれん草などの栽培が盛んで、都心まで関越自動車道で80分という立地条件から、取れたて新鮮野菜を毎日首都圏に向け出荷しています。また、リンゴやサクランボ、イチゴなどの栽培もされており、収穫時期には多くの観光客で賑わっております。

平成21年度に「日本で最も美しい村」に加盟し、恵まれた自然環境と景観、農業の転換を眼にする養蚕民家や史跡など日本屈指の農村風景を大切にしています。また、今年の７月30日に道の駅「あぐりーむ昭和」がオープンし、昭和村の新鮮野菜の直売所、村で採れた食材を使用したレストラン、村の観光案内所や足湯などを備え、連日大変な賑わいとなっております。

昭和村消防団の概要

昭和33年の旧２村の合併により、昭和村消防団として発足し、10分団及び自動車部２部の体制で始まり、現在では10分団、団員数314名で活動を行っております。

本村の幹線道路など広い道路の通る地域には、消防ポンプ自動車を５台配備、細い道が

全国消防操法大会

多い地域には小型動力ポンプ付積載車６台を配備し災害に備えています。

平成14年度から平成21年度にかけて、消防団活動を円滑に遂行するため管内10箇所の詰所の新築及び敷地内の整備を行い環境改善に取り組んでいます。

また、火災、風水害等の発生時に備え、消防団に緊急一斉メール送信システムを導入し、いち早く団員に的確な情報を伝達する体制が整えられております。

昭和村消防団の活動

本村の河岸段丘の地形と面積の約３割を占める山林を有していることから、土砂災害危険箇所の点検や、林野火災発生時の訓練などを行っています。また、普通救命講習会を実施し、団員全員が心肺蘇生法やAEDの使い方などの技術、知識を習得するため継続的に行っています。

昭和村消防団は、操法大会にも熱心に取り組んでおり、群馬県大会でポンプ車、小型ポンプ合計で10回優勝、その内５回は全国大会に出場し、選手と団員が一丸となって臨み、３度入賞することができました。

地域に密着した消防団活動を推進しておりますので、住民と一帯となった防火活動を実現するため、団員による消火栓の使い方の講習、防火チラシの配布、年数回火災予防を啓発しながら各家庭を訪問するなど、住民の防火意識の高揚を図っています。

また、防火防犯に大きな効果を期待できるため、村内各地域を毎月数回、定期的に夜間の火災予防広報をしながら巡回し、地域の予防消防に努めています。

秋季点検時に幼年消防クラブの村内３箇所の保育園児の分列行進を行い、併せて園児と保護者に日頃の訓練の成果を披露することにより、消防団活動のPRと防火意識の向上を図り、円滑な消防団活動の実現に向け、家族の理解と協力を得られるように取り組んでいます。

おわりに

去る３月11日に発生した東日本大震災では、多くの消防団員が、身を挺した懸命な活動の中で殉職されたことは、同士である私たちにとって、痛惜の念に堪えません。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、被害を受けられた皆様、そのご家族に心からお見舞い申し上げます。

全国的に消防団員確保が困難な状況で、消防力低下が懸念されている中、災害は多様化又は大規模化し、いつ何時発生してもおかしくない状況となっております。昭和村消防団は、その災害に備え、地域に密着した活動の中で、実践的な訓練を展開し、自ら地域を守るという使命感のもと、地域住民の皆様からの期待に応えるべく、献身的に活動を行っています。

今後も今回の最高栄誉である「まとい」の受章を誇りとし、地域防災を担う組織として、住民の皆様の期待に応えられるよう、知識技術の向上に向けて邁進してまいりたいと思います。

消防団出初式

東西南北
福井

「ものづくりの街　鯖江を支える、消防団」

鯖江市　鯖江消防団　団長　加藤　治

“ものづくりの街　鯖江”めがねの街として国内の眼鏡フレーム製造90%以上、世界の約20%を製造し、イタリア、中国と並んで世界三大産地の一つ、鯖江市を紹介します。

1　鯖江市の紹介

鯖江市は、福井県のほぼ中央に位置し、面積84平方キロ、人口６万８千人余の市です。

基幹産業は、眼鏡フレーム製造業、業務用漆器の国内シェア８割を誇る越前漆器産業、国内合繊織物産地の繊維産業であります。また、福井県内どの市町でも人口が減っている昨今、県内唯一人口が増加しているのは隣市のベットタウンでもあり、地場産業を中心に中小の企業が多数存在しており働きやすく、住みよい市つくりを地道に歩んでいるからです。

鯖江市の中心には日本の歴史公園100選に登録された西山公園があり、春は西日本海側随一４万３千本のつつじが咲き誇り、秋は１千本のもみじが公園を彩り、四季を通じて市民が憩い楽しめる美しい公園です。また、ゴールデンウィーク時にはつつじ祭りが開催され、県内外から20万人を超える観光客が訪れ、賑わいのある街を楽しむことができます。

西山公園（５月）

鯖江が誇る眼鏡フレーム

2　鯖江消防団の概要

昭和30年の鯖江市制とともに鯖江市消防団が誕生した。その後昭和44年11月に、鯖江・丹生消防組合発足に伴い、鯖江消防団と改名し、分団数11、団員数177名で、基幹産業従事者が大半を占めて誕生した。

現在、分団数13、団員数220名（内女性消防団員18名）で、約半数の98名が基幹産業従事者で地域の防災を担って安全・安心に取り組んでいる。

平成16年７月18日に発生した「福井豪雨」で、鯖江市の東部が壊滅的被害と１名の尊い命が奪われた。鯖江団を上げて被災者の人命検索そして復旧活動を連日行った。この災害を教訓に、水防に対する団員のスキルアップを諮って、毎年６月に行政と一体となり水防訓練を実施している。

団員の高齢化が進み、就業形態の変化で団員のサラリーマン化が進み入団希望者が少なく、若い団員確保のために、行政と一体になり、装備の充実、施設の環境整備を図り、魅力ある消防団に取り組んでいる。

3　消防団の活動

・出初式

鯖江市消防出初式を、鯖江市中心の御本山誠照寺前にて、消防音楽隊とカラーガード隊を先頭に消防職・団員300名、車両20台が分列行進し、市民に勇姿を披露して、鯖江市のシンボル西山公園をバックに多彩な一斉放水を繰り広げ一年の安全を祈願している。

鯖江市消防出初式（まとい隊）

・自主防災組織の育成

「自分たちの街は、自分たちで守る」を合言葉に、自主防災組織100%を目指し、わが消防団員を自主防災のリーダーと位置付け、自主防災組織の育成と指導に取り組んでいる。市総合防災訓練では、市内の自主防災組織や婦人防火クラブ・婦人消防隊を指導するなど、消防団として育成に取り組んでいる。

・訓練

ポンプ操法訓練・水防訓練・秋季訓練・非常召集訓練と年間四つの訓練を実施し、団員の技術や知識の向上を図り、団結力および士気の高揚に努めている。

ポンプ操法訓練は毎年６月に、県大会出場年は、県消防操法大会の予選を兼ねて、その他の年は、災害対応力を高めるために、実践消防操法で災害現場を想定した訓練を実施している。

水防訓練

消防操法大会

・広報

発隊して18年目を迎えるカラーガード隊シューティングスターが、鯖江・丹生消防音楽隊と一緒に、消防の広報活動の一翼を担っています。

年間20回以上の出演と、昨年は奈良県で実施された全国消防音楽隊フェスティバルに出演し、福井県屈指のカラーガード隊として君臨している。

カラーガード隊

4　終わりに

今回の東日本大震災で被災された皆様に、お見舞い申し上げますとともに、多くの犠牲者並びに、消防団員・消防職員のご冥福をお祈り申し上げます。

我が消防団も、今回の大震災を教訓に、平成16年「福井豪雨」を風化させない為にも、多様化する災害に対し、地域防災力向上を目指し、防災のリーダーとしての役目をはたし、消防団活動のさらなる充実を図っていきたいと考えています。

東西南北 宮崎

「市民の生命・財産を守る宮崎県小林市消防団」

小林市消防団　団長　川野　三男

1　小林市の紹介

小林市は、宮崎県南西部に位置し、平成22年３月に旧野尻町と合併し、人口47,359人（平成23年９月１日現在）、面積563.09㎢となりました。主な産業は、農畜産業であり、小林市周辺地域の西諸県郡における「西諸牛」は、宮崎牛の中でも特に品質の高さに定評があります。このほかにも、「アールスメロン」は、宮崎ブランド「めろめろメロン」と呼ばれ、トップブランドとなっており、「ぶどう」「梨」といった果樹も大変好評を得ています。また、全国的にも有名な「完熟マンゴー」の「太陽のタマゴ」も生産されています。

消防協力会のメンバー

2　小林市消防団の概要

小林市消防団は、合併により団本部１（女性部含む）、分団10、団員515名（定数532名）で編成されています。階級構成は、団長１、副団長５名、分団長10名、副分団長22名、部長27名、班長105名、団員345名となっています。消防機動力として、指令車１台、タンク車１台、ポンプ自動車14台、

生駒高原のコスモス

100万本咲いています

防火訓練の消火作業

住民参加の避難訓練

積載車13台、小型動力ポンプ20台、その他１台を配備しています。

3　小林市消防団の活動

小林市消防団では、出初式、操法大会、防ぎょ演習などの行事以外に図上での火災想定訓練を毎月21日に「21（にーいち）会」という名称にて、３地区（小林・野尻・須木地区･･･市町村合併前の各地区）に分け開催しています。この会は、昭和25年４月21日にはじまり、当時は、旧小林市の中央部にある３つの部が、団員の教養を高め、団発展に寄与する目的で発足しました。その後、全体の部で実施することとなり、図上の火災想定訓練以外に実際の現場活動の検証を行い、その後の消火活動に活かしています。

4　おわりに

全国どこの消防団においても、団員確保が課題となっていることと思われます。当市においても定数に達しておらず、苦慮しているところです。本市においては、各自治会にて構成される「小林市消防協力会」が組織されており、自治会代表である区長が各部の協力会長となって、団活動や運営に多大なるご協力をいただいております。消防協力会においては、各部の団員確保の協力以外にも防火活動の啓発や消防団各行事に出席いただき消防団員の士気高揚にもつながっています。

今後も消防協力会をはじめとした関係機関と協力し、訓練等を重ねて、市民の生命と財産を守る消防団活動を行っていきたいと思います。

女性部の備蓄食配布

東西南北
山形

「限りない、市民の安全・安心のために」

東根市消防団　団長　植松　富士雄

1　東根市の紹介

東根市は山形県のほぼ中央部に位置し主要国道や、山形新幹線さくらんぼ東根駅、東北中央自動車道東根IC、山形空港が所在する県内交通網の要衝にあります。

人口は４万７千人を数え、県内市町村の中で唯一人口が増えている市です。また多くの企業が立地し工業製品出荷額は県内第２位で、昼間人口が夜間人口を上回っています。

一方温泉郷もある自然豊かなまちでもあり、気候と地形が果樹栽培に適しており、日本一の生産量を誇るさくらんぼをはじめ、桃やりんご、ぶどう、ラ・フランスなど四季を通して楽しめる果樹王国でもあります。

毎年６月には東北最大、全国屈指の「さくらんぼマラソン大会」が開催され、一万人を超すランナーが、さくらんぼがたわわに実るコースを駆け抜けます。

子育て支援施策には特に力を入れており、シンボル施設「さくらんぼタントクルセンター」では連日、多くの親子連れで賑わっており、平成23年には全国の市では初めて「にっけい子育て支援大賞」を受賞しております。

2　東根市消防団の沿革

本市の消防団の歴史は、江戸時代に若者でつくる「若勢組」という組織が各村にあり、村祭りの仕切りや村社の警備、火災や風水害のときは村名主の命令で出向いて活動したという記述があります。明治22年の東根村役場職員録には、「火防正副頭取」との記載が見られ、「い組」～「を組」の「へ」を除く11組と、「み組」「宮崎」「六田組」「神町組」の組織がありました。明治31年に東根町消防組に改組、組の名称も１組～15組となりました。昭和14年には東根町警防団と改め、昭和23年には町村合併により東根町消防団、昭和33年に市制施行により東根市消防団と改称され、以来50有余年にわたり東根市民の安全安心のために活動してきました。

現在は、７個分団49個部で本部団員及び女性団員を含め849名、ポンプ車７台、ポンプ積載車21台、小型ポンプ37台を保有し活動しています。

3　東根市消防団の主な活動歴

昭和42年８月29日、山形県では戦後最大級

さくらんぼ

さくらんぼマラソン大会

出初式

と言われる羽越災害にみまわれ、東根市でも最上川に注ぐ支流白水川の右岸堤防の２箇所が決壊、水田132haが冠水、消防団員約500人が丸２日間、杭打ち、積み土のう、木流し工法等の水防活動を繰り広げ、果敢に立ち向かったことが今でも語り草になっています。

平成２年10月には、当時の日本消防協会笹川会長をお迎えして、東根市民体育館を会場に「第12回幼年消防全国大会」が開催されました。団員一同準備や大会運営に精力的に携わり大盛会裏に終えることができました。

平成17年10月に横浜市で行われた、「第17回全国消防操法大会」に、山形県を代表して小型ポンプの部に参加し、日頃の訓練の成果を発揮し５位入賞を果たすことができたことは、本市消防団にとって輝ける栄誉となっています。

平成18年２月10日、第58回日本消防協会定例表彰式において、栄えある「まとい」を受章することができました。この栄誉は、我々消防団員はもとより、東根市民及び消防防災関係者にとってもこの上ない喜びであり誇りでもあります。これも地道に築いてこられた先人の弛ゆまざる努力と、受け継がれてきた伝統の賜物と深く感謝するところであります。

4　終わりに

この度の東日本大震災により、消防団員をはじめ亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様方に、心よりお見舞いを申し上げます。

東根市では、長時間の停電や燃料不足などのほか、幸いにも大きな被害はありませんでしたが、自粛ムードの中で温泉利用客や観光さくらんぼ園入場者の大幅減などがあり、今も影響は続いています。

また被災地であり本市と友好関係にある宮城県東松島市に、東根市消防団として捜索活動に参加しましたが、被害を目の当たりにして言葉にできないほどのショックを受けました。教訓にするには余りにも大きな災害でありますが、復旧復興には地域の方々同士の連携、絆、そして我々の支援が大切であると感じてきました。東根市消防団としても力不足ではありますが、今後とも継続して支援を行なってまいります。

本市におきましても、今後予想される山形盆地断層帯の影響による地震は、マグニチュード7.8、震度６強から７といわれ、市民の防災に対する関心は今まで以上に高まっています。我々消防団への期待も益々大きくなっており、期待に添えるよう団員の確保、資質の向上、訓練研修等に、より一層の努力をしていきたいと思っています。

消防操法大会

幼年消防クラブ

「安心・安全で住みよいまち」

日野町消防団　団長　藤原　洋一

1　日野町の紹介

日野町は、鳥取県西南部に位置し、人口3,784人、東西20㎞、南北12.5㎞の山村地域で、その境を江府町、伯耆町、日南町、岡山県新見市及び新庄村に接しています。また、南北に貫流している日野川及びその支流に沿って集落が点在しています。

日野町の誕生は、昭和35年に根雨町と黒坂町の２町が合併し、発足当時の人口は8,701人でその後高度成長により都市へと人口の流失が生じ今日の過疎化減少を起こしています。

2　消防団の概要

日野町消防団は、昭和35年の合併により発足しました。現在４分団７班体制で、団長１名、副団長２名、分団長４名、副分団長４名、班長７名、団員42名で構成されています（条例定数64名）。平成20年４月からは分団の中に女性隊を立ち上げ現在女性団員６名が所属しており、消防団の後方支援をしています。ポンプ車３台、小型動力ポンプ積載車１台、救助資機材搭載型車両１台（消防庁貸与）、広報車１台、消防活動二輪車（赤バイ）３台を配備し、地域住民の生命・財産を守るため活動しています。

出初式一斉放水

3　消防団の活動

消防団の活動は、班長以上で構成される幹部会において年間計画を決定し、この計画に基づいて活動しています。

主な行事としては、４月の任命式・出初式、５月には町操法大会、８月に花火警戒、９月に夏季訓練、10月には全町一斉防災訓練等の実施など様々な行事を行っています。

夏季訓練では、水利部署等検討し毎年想定場所を変えて実戦を想定しての水出し訓練を実施しています。

平成12年10月発生の鳥取県西部地震を契機に毎年行われている、全町一斉防災訓練では、各自主防災組織や各関係機関と連携し情報伝達、警戒等の訓練を実施して地域の防災意識の向上を図っています。

集中豪雨等による洪水・土砂災害等を想定した今年度の防災訓練では、全住民参加協力のもとに各関係機関と連携して巡視、避難誘導訓練を実施しました。

夏季訓練

4　終わりに

消防団を取り巻く現状は、我町もごたぶんにもれず団員数の減少と高齢化で団員の確保に大変苦慮しています。各方面に呼びかけ、確保に向けて奮闘中です。

今後も各関係機関と協力しながら、安心・安全で住みよいまちを目指し、活動してまいりたいと考えております。

出初式

東西南北
京都

「20消防団で、わが町の安心・安全を」

京都府消防協会　舞鶴市支部長　小山　勝巳

1　舞鶴市の概要

舞鶴市は総面積342.27㎢、人口８万９千人余りで京阪神地区から100㎞圏の日本海沿岸部に位置し、海と山に挟まれ市域の約８割が山林であり、平地の少ない地形で、東舞鶴と西舞鶴の２つの市街地をもつ複眼都市であります。

その生立ちは、16世紀後半細川氏の築城以来、城下町・商工都市として発展した舞鶴市（現在の西舞鶴地区）と、明治34年海軍鎮守府の設置により軍港都市として発展した東舞鶴市が昭和18年に合併、昭和32年には市内西部を流れる一級河川の由良川流域にあった加佐町を編入し、現在の舞鶴市が誕生しました。

戦後は、横須賀・呉・佐世保との４市のみに適用される特別法の「旧軍港市転換法」の成立を受け、軍港都市からの転換と復興を目指し、平和産業港湾都市を市是として旧軍用施設の転活用を進め、現在では板ガラス工場、造船所、清涼飲料工場及びベニヤ板製造工場等が基幹産業であり、市内の製造品出荷額のおよそ80％を占めるほか、若狭湾国定公園に指定されている入り江と岬が美しく交錯したリアス式海岸、赤レンガ倉庫群、西国第二十九番札所の松尾寺をはじめ、カニ、トリガイ、岩ガキなどの豊富な海産物を活用した観光産業も盛んな街であります。

五老ヶ岳公園から望む　舞鶴湾

消防出初式

また、海とともに発展してきた本市には、海上自衛隊舞鶴地方総監部や第八管区海上保安本部、舞鶴海洋気象台、海上保安学校など海に関係した機関が多数所在しており、日本海側における国防や海の安全に関わる拠点としての役割を担うほか、これら防災関係機関と消防が市の安全・安心の要

となっています。

2　消防団の歴史

本市の消防団は歴史が古く、田辺藩時代から消防組が構成されていました。

明治27年には、消防組規則の公布により各地域にも「消防組」を設立されて以降、昭和14年には警防団令の公布により「警防団」に名称を改称後、昭和22年に２個団体制で「消防団」が誕生しました。

昭和32年には加佐町の編入により、東舞鶴地区９団、西舞鶴地区11団の20消防団の定員1,583名体制となり、現在は、20消防団の全定員1,380人で市内全地域を守っています。

また、軍港都市であった本市は常備消防の歴史も古く、昭和18年に舞鶴消防署が創設されて以来、常備、非常備の消防が強い絆により結ばれています。

平成19年７月に発生し約22,800㎡を焼損した大規模紡績工場火災では、常備、非常備の全消防力を集結し13時間に渡る消火活動が実施できたのは、もとよりこの歴史が生んだ力であります。

一方、平成16年10月台風23号の襲来により孤立した地域では、決定権限をもつ消防団長が状況を判断し活動方針を決定するなど、20消防団制の特殊性を活かして対応しています。

3　消防団の活動

本市は、市内消防団相互の事務連絡と連携及び他都市消防団との協調を図るため、20名の消防団長により組織する「舞鶴市消防団長連絡協議会」と「京都府消防協会舞鶴市支部」により全消防団で実施する事業と、各消防団が地域ごとに実施する事業とに大きく分かれます。

市長視閲

年度の主な事業は、５月１日人事異動に伴う市長から新団長への任命辞令の交付から始まり、訓練指導員研修や新入団員研修の後、各消防団において実践的な訓練を始め、７月には消防操法大会と水防工法訓練を隔年で実施しています。

各地域では、実情に応じた大規模なイベントや年末の消防警備を行うほか、近年では消防団毎に受賞している消防庁長官表彰及び京都府消防協会長表彰の表彰調査のため約３カ月の訓練を実施しています。

また、４年ごとに実施される隣接の福井県高浜町の原子力発電所の事故を想定した防災訓練に消防団員が住民の避難誘導等のため出動しています。

4　おわりに

本市においても団員の高齢化やサラリーマン化により、入団者の確保が難しく、大きな課題となっていますが、本年３月に発生しました東日本大震災により、改めて消防団の必要性が謳われる中、２０名の消防団長が結束し常備消防との連携を強化して、次世代に繋がる魅力ある消防団を目指してまいります。

シンフォニー（広島県）

「女性消防団ならではの活動を目指して」

尾道市消防団　因島分団　分団長
木戸　奈美江

私たちの住む因島は、瀬戸内海のほぼ中央に位置し温暖な気候の島です。そして、広島県尾道市から愛媛県今治市までの島々を繋ぐサイクルロードもあり、人が歩いて渡ることができる風光明媚な島です。

因島がまだ、因島市であった平成14年に団本部所属の女性消防団として結成されました。最初の活動は、島内各所やスーパー店頭などでの広報で、住民の方にティッシュを配布し火災予防を訴えました。そして、平成18年に尾道市との合併により尾道市消防団因島分団としての活動が始まりました。職場の異動等で退団する団員も出てきて新たな団員確保も大変でしたが、所属団員の呼び掛けにより徐々に団員も増加し、現在、19名（定員20名）で活動しています。

車両による予防広報

広報活動は、毎月１回消防車両による島内を巡回しながらの火災予防広報を実施しています。また、幼児向けの大型紙芝居や所属団員が製作した紙芝居を因島・瀬戸田全域の保育所・幼稚園15ヶ所で上演しています。平成22年度は消防署の協力を得て消防ポンプ自動車も同行し、幼児の消防車見学の取り組みを行い大変喜ばれました。

出初式　市旗要員

出初式　総合司会

研修・訓練については、財団法人広島県消防協会主催の女性消防団員活性化研修会へ女性消防団員13名が参加し、在日米海軍司令部地域統合消防隊予防課長の長谷川祐子氏による講演「災害予防と防災指導」を受講し、アメリカの子供たちに行われている危険に遭遇したときの行動等を教える方法に感銘を受けたので、是非、練習して取り組もうと皆で頑張っています。また、男性団員と共に行動する防災訓練で土のうを作製したり、規律訓練、冬期訓練及び年末特別警戒を実施、更には消防出初式において総合司会や市旗要員を担当しています。

所属団員全員が普通救命講習を受講しており、応急手当普及員の資格を取得した団員もいます。団員一人ひとりが仕事を持ち、無理のないよう全員が協力して活動していく中で、平成21年度には広島県消防協会から表彰していただきました。

これからも、女性としてできる、女性ならではの活動を目指して全員で力を合わせて頑張って行きたいと思います。

防災訓練

シンフォニー（愛媛県）

「地域と共に支え合う活動」

西条市消防団　団本部女性部　部長
宇佐美　友子

愛媛県西条市は、面積509㎢、人口11万４千人、南に西日本最高峰の石鎚山、北には瀬戸内海があり、海と平野と山が揃った風光明媚なところです。本市は【うちぬき】と呼ばれるおいしい地下水が豊富なところで、「水の都」と呼ばれるゆえんになっています。【うちぬき】は「名水百選」や「水の郷」に認定され、全国利き水大会では２年連続日本一のおいしい水に選ばれるなど、その美味しさが認められています。

私たち団本部女性部は、９名から出発し、現在では部員数も21名に増え、市内全域で積極的に活動をしています。

入団のきっかけは、皆さん様々ですが、地域性を活かしながら消防団活動に取り組んでおり、合併と共に活動範囲においても広がりをみせているところです。

男性団員のように、同地区での編成でなく、西条市全体の中からの集まりであるために、活動時以外ではなかなか顔を合わせることがありませんが、日々忙しい中、女性部の会合等に駆けつけてくれる女性部員さんもいます。

今年度は、西条市内の各小中学校救命講習指導補助に、多数の女性部員さんが積極的に参加をしてくれました。初めて受講する地区もあり、女性部員の皆さんは、本当

愛護班、夏休み子供チャレンジフェスティバル

応急手当指導員養成講習会

に大変だったと思います。

全く馴染みのない地区での活動は少し戸惑いがあります。このような時に、地元の女性部員さんがいますと、とても心強く円滑に活動が出来ます。

火災予防啓発活動である、高齢者訪問や市民救命講習会等、様々な活動の場には、地区の方々との触れ合いが数多くあり、団本部女性部の活動を知って頂けるPRの場でもあります。

災害や火事等の情報を耳にすると、女性部員さんから「○○地区は大丈夫？心配です。」や「地元の女性部員さん達と○○活動をしたいと思います。」等のメールが私に届きます。日頃から女性部員一人ひとりが積極的に災害の情報に耳を傾け、何か市民のために役に立ちたいという気持ちが、大きくたくましいものになってきたと感じています。

女性部員の皆さんは、仕事や家庭を持っており、全員が参加することがなかなか出来ない現状ですが、地域と共に、お互いが支え合う心を大切に、これからも防災・救命講習等にも積極的に参加し、活動を進めて行きたいと考えています。

「ありがとう、助かりましたよ。」「女性消防団員か、今の時代はあんたらの力も大切なんよ。」と言って頂いた言葉が大変嬉しく、前向きに活動していく感謝の言葉になっています。

安全・安心そして支え合う地域のために、女性部員同士の絆を大切に、明日への活動に取り組んで参りたいと思います。

団本部女性部を支えて頂いている関係者の皆様に、感謝を申し上げると共にこれからもご指導をよろしくお願いいたします。

応急手当講習会

頑張れ！少年消防クラブ

No.44　梼原学園少年消防クラブ（高知県）

高知県消防操法大会での「軽可搬ポンプ操法」披露

梼原町女性消防隊　分隊長　川上　まゆみ

９年前から、少年消防クラブに軽可搬ポンプ操法の指導をしていましたが、平成23年度から３小学校と１中学校が統合になったことにより少年消防クラブの規模が大きくなり、名称も越知面少年消防クラブから「梼原学園少年消防クラブ」に変更しました。

私自身、全国女性消防操法大会に２度出場した経験を生かしながら、梼原消防団と一緒に指導しています。女性消防隊と消防団とでは別の組織ですが、９年も経つと「厳しく指導する消防団員のおじさん、フォローする女性消防隊のおばさん」という様に自然に役割もできています。操法の手順は、全国女性消防操法大会と全く同じことをしています。

今年は、小学校５・６年生のクラブ員でチームを構成しました。

中には身長が130㎝のクラブ員もいて、40㎜のホースを持たすことに戸惑いがありましたが、去年も経験していたクラブ員がリーダーシップをとってチームを引っ張ってくれました。

おかげで、練習はみんな皆勤賞で頑張ることができました。

今年は初めての試みで、平成23年10月16日に高知県消防操法大会（全国大会予選）で披露しました。そこでは、千人以上の消防関係者の皆さまに、たくさんの声援や温かい感動のお言葉をいただき、クラブ員の誇らしげな顔がとても印象的でした。

「未来の消防人を育てる」ことも私たちの仕事と、梼原消防団・梼原町女性消防隊は思っています。また、指導をすることにより、私たちもクラブ員から多くのことを学ばせてもらっているように思います。

伝統になりつつあるこの「少年消防クラブの軽可搬ポンプ操法」の訓練を、これからも続けていこうと思っています。

防火ポスター最優秀賞
京都府宇治田原町立宇治田原小学校　垣口侑飛さん
の作品が選ばれました。

生活協同組合　全日本消防人共済会

生活協同組合全日本消防人共済会では毎年、小学校4年生から中学生を対象とした防火ポスターコンクールを行っています。今年度の防火ポスターコンクールの最優秀賞には京都府宇治田原町立宇治田原小学校４生年垣口侑飛さんの作品が選ばれました

平成23年度防火ポスター

最優秀賞
京都府　宇治田原町立宇治田原　小学校４年生　垣口侑飛さん

今年度も各都道府県の支部から選出された作品の中から、第一次審査及び第二審査を行い厳選なる審査の結果、下記のとおり決定しました。

最優秀作品については平成23年度全国統一防火標語「消したはず　決めつけないで　もう一度」の標語を掲載し11月９日から行われる秋の全国火災予防運動にあわせて防火ポスターとして全国に配布いたしました。

平成23年度防火ポスターコンクール審査結果一覧

最優秀賞（１名）

京都府	宇治田原町立宇治田原小学校	４年	垣　口　侑　飛さん

優 秀 賞（２名）

青森県	十和田市立三本木中学校	２年	白　川　麻　由さん
鳥取県	米子市立弓ヶ浜中学校	２年	田　内　萌　子さん

佳　　作（７名）

岩手県	北上市立和賀東中学校	１年	阿　部　　舞さん
埼玉県	所沢市立向陽中学校	１年	一ノ瀬　敬　太さん
岐阜県	安八町立登龍中学校	１年	児　玉　眞以子さん
奈良県	生駒市立光明中学校	２年	新　井　啓太朗さん
香川県	坂出市立白峰中学校	３年	大　西　愛　未さん
愛媛県	東温市立北吉井小学校	４年	重　松　聖　人さん
沖縄県	宮古市立久松中学校	３年	糸　数　大　雅さん

優秀賞

青森県十和田市立三本木中学校
２年生　白川　麻由さん

鳥取県米子市立弓ヶ浜中学校
２年生　田内　萌子さん

雪害に対する備え

総務省消防庁　防災課

我が国では毎年、自然災害により多くの尊い人命が失われていますが、近年、大雪となった年においては、雪害により多くの方が亡くなっています。特に、平成18年豪雪、昨年12月から今年３月の大雪では、一冬に100人を超える方が亡くなっています。

雪害による人的被害の主な要因としては以下のようなものが挙げられ、除雪作業中の事故によるものが多いという特徴があります。

・除雪作業中の屋根、はしごなど高所からの転落
・除雪作業中の水路等への転落
・除雪機の事故（巻き込まれなど）
・屋根からの落雪
・除雪作業という重労働による発症

毎年雪害による人的被害が数多く発生している状況を受けて、国では平成20年度に「雪害による犠牲者ゼロのための地域の防災力向上を目指す検討会」を設置し、雪処理に係る事故防止の徹底のための対策について提言をまとめるとともに、啓発用パンフレット「除雪中の事故防止に向けた対策」を作成・公表しました（http://www.bousai.go.jp/fusuigai/setugai/03/09_siryo4_s01.pdf）。

このパンフレットでも詳しく触れられていますが、除雪作業中の事故を防ぐためには、「２人以上で除雪作業を行う」「はしごの固定、ヘルメットや命綱の装着など、安全対策をしっかりとして作業を行う」「除雪機の雪詰まり除去はエンジンを止めてから行うなど、除雪機の適切な利用」「経験、年齢、体力に対して過信せず、無理な作業を行わない」などのポイントを心がける必要があります。

パンフレット
「除雪中の事故防止に向けた対策」
（平成21年３月発行）

地域の協力による除雪作業
（提供：新潟県魚沼市）

近年の傾向をみると、65歳以上の高齢者が犠牲となる割合が高く、全犠牲者のおよそ３分の２を占めています。こうした傾向は、豪雪地帯における高齢化の進展、除雪作業の担い手不足が要因の一つとなっていると考えられます。

こうした状況への対策として、隣近所、自治会、消防団、自主防災組織など、地域コミュニティの共助による除雪作業を実施できる仕組みや、地域内外のボランティア等の除雪作業の担い手が協力して作業できる仕組みの構築が有効です。国土交通省が作成している「共助による地域除雪の手引き～安全・効率的な雪処理方策マニュアル～」では、共助による地域除雪の手順やポイント等が、事例を交えて紹介されています（http://www.mlit.go.jp/common/000112138.pdf）。

今年もこれから本格的な雪のシーズンを迎えます。国でも降雪期を前に、「大雪に対する防災力の向上方策委員会」（事務局：内閣府、国土交通省。オブザーバー：消防庁等）を設置し、昨年度の豪雪の分析と、その対策について検討を行い、豪雪地帯の雪害対策についてまとめることとしています。雪による事故への備えを怠らず、雪害に強い安心安全なまちづくりを進めていきましょう。

うちの名物団員

福井県

越前消防団　団長

佐々木　隆興

越前町織田は、織田信長祖先を輩出した地で、町の中心に織田信長公氏神の社、劔神社が鎮座する歴史ある町である。

我が団長は、馬鹿がつくほど、祭り大好き、太鼓大好きで、福井県内外からも高い評価を受ける和太鼓の祭典「OTAIKO響」を平成元年立ち上げ、創作太鼓「OTAIKO座明神」の一員として活動を続けている。

事務機店を営みながら、地域の活動に積極的に取り組むとともに、越前消防団長として住民の「安心、安全」を念頭に、団員の団結力を諮り、消防技術の向上に努めている。

宮崎県

宮崎市消防団　女性分団第２部

バレトバレラ　デイシーミリアム

コロンビア生まれで、根っから明るく元気一杯の彼女は、デイシーの愛称で呼ばれています。普段は、外国語講師として小学校や幼稚園で英語を教えています。

消防団では、応急手当の指導や寸劇活動などに一生懸命で、団幹部からの信頼も厚いデイシー団員。今後の夢は、「子供達に防災教育をしていきたい」と本当に前向きな彼女、これからも期待してますよ。

宮崎県

宮崎県椎葉村消防団　第２部団員

山中　寿充

うちの名物団員は村内一大イベントである椎葉平家まつりで鶴富姫と同様、主役を務める那須大八郎、山中寿充団員です。仕事では父親と「特用林産業山茸」で椎葉の自然を活かした椎茸栽培で汗を流しています。１年を通して行われる消防訓練や出動の際も幹部の指示を的確にこなす頼もしい団員です。消防活動同様、まつり期間中は、凛々しい鎧姿で立派に主役を務めました。

愛媛県

久万高原町消防団　柳谷方面隊長

羽澤　修一

「修ちゃん」の愛称で地元消防団員、地域住民から親しまれている羽澤修一さんを紹介します。当町は、過疎・高齢化の進んだ地域ですが「中津大人の音楽学校」を主催しギターを片手に自ら作詞作曲した歌を地域住民等に披露しています。今後も消防団活動のみならず地域活性化のリーダーとしての活躍も期待されています。

島根県

江津市消防団　市山分団　分団長

金山　達也

市山分団長の金山さんは、地元「今田神楽社中」会長として、神楽の伝承と後継者の育成に力を注がれています。

また、地元の女性で結成されたバレーボールクラブの監督としてバレーの指導も行っておられ、大変忙しい日々をすごしておられます。

消防団活動では、分団長として団員の育成に力を入れ、特に操法訓練に関しては自らの経験を生かして熱心な指導を行う熱血消防団員です。

鳥取県

日野町消防団　副団長

廣川　光保

おしどりの住む町日野町からは、副団長の廣川光保さんを紹介します。
普段、副団長は自営業の林業経営者として朝早くから忙しく働いておられます。
消防団では、いざ出動のサイレンが鳴ると、どんな場所で仕事をしていても、いち早く防災センターに駆けつけ、団員に的確に指示し、自ら先頭に立って活躍されています。
特に消防の基本である操法訓練には熱心に取り組まれ、若手団員の育成と指導に当たられていますが、自身も全国消防操法大会で、準優勝というすばらしい成績をおさめられています。
これからも日野町消防団員として、先頭に立って活動していこうと頑張っておられる頼もしい存在です。

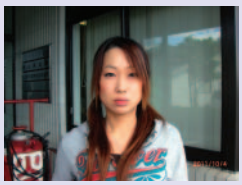
京都府

伊根町消防団第１分団第５部　団員

橋本　　弘

伊根町消防団第１分団第５部は消防艇での活動を主としており、部員は船舶免許を所有している漁業関係者で構成されています。橋本団員は鰤の養殖を営んでおり、その鰤は伊根鰤と呼ばれ、伊根町を代表する味覚となっています。日頃から海に接しており、その経験は消防団活動において、遭難者の捜索や海上警備の際に発揮されています。

京都府



京丹後市消防団　団員

袖長　照美

京都府北部の京丹後市で女性消防団員として活躍中の袖長照美さんは、普段、市内の果樹園でおいしい桃や梨などを作るため、日々汗を流しています。
今回、京都府代表として全国女性消防操法大会に京丹後市の出場が決定し、女性消防隊長として強力なリーダーシップを発揮し訓練に励んでいます。この記事が掲載される頃には、上位入賞を果たしている予定です。（？）今後も、女性消防団員として、保育所等での防火教室をはじめ、高齢者宅への防火訪問等、女性ならではの柔らかくきめ細やかな対応を活かした活動をお願いします。

静岡県

駿東郡小山町消防団　本部員

勝永　由美子

2010年に富士山須走口の玄関となる小山町消防団に発足した女性消防団（愛称“ふじにこ隊”）の一員、同年９月この須走で山のパン屋さんをOPENした勝永団員、時間を上手に使い早朝からのパン造りと家庭を守りながらの防火指導や応急手当普及員として地域のために貢献している女性団員のお手本です。
ふじにこ隊の発足と団員活動１周年を記念して自慢の天然酵母で焼き上げた“ふじにこパン”を試作してみました。新商品の発売となる日が近いかも？これからも笑顔と持ち前の明るさを出して、ふじにこ隊での活躍を大いに期待します。

山形県

山形市消防団　副団長

高野　英昭

セイヤ！セイヤッ！威勢のいい掛け声とともに、パン、パンと心地よい杵の音が響く。
山形市消防団の高野副団長は、地元食文化伝承を目的に活動する、もちつき保存会で、消防団活動の合間、もちつきに汗を流しています。
会では、町内会や親子行事などへ年間140回もの出前もちつきを行い、特に、３月に発生した東日本大震災に対しては、「もちつきで被災地に勇気と元気を届けようプロジェクト」と題し、既に女川町、石巻市、南三陸町等の被災地や山形市への避難者に対し、元気もちをふるまい、炊き出し回数は、既に20回を超えています。
高野副団長からは、「幸いにも被害の少なかった山形市だが、被災地への支援も少なくなっている今、我々は、今後も仮設住宅の入居期限となる２年間を目途に力の限りの活動を続ける」と力強い言葉が返ってきました。
地域住民の安心安全を守る自治体消防団ですが、市域を越え、広域的に住民に勇気と元気を届ける活動を続ける高野副団長の更なる活躍に期待しております。

消防団の広場

愛知県「消防団員被災地活動調査」を終えて

北名古屋市消防団
団長
中山　金一

きっかけは、日本消防協会主催の消防団幹部特別研修での出会いでした。

９月16日（金）から18日（日）までの２泊３日の日程で、愛知県内の消防団員の代表31名を中心とし、県議会議員・県職員・県消防協会職員を含めた総勢41名で、「消防団員被災地活動調査」として、宮城県亘理郡亘理町・山元町及び石巻市の現地を視察してきました。

この取り組みの目的は、東日本大震災における地震及び津波の被害について、現地の状況を視察するとともに、被災地の消防団員及び消防吏員から直接体験談を聞く等、意見交換を行うことでした。

参加した県内消防団員は、初めて現地の状況を目の当たりにし、被災地で懸命に活動を続けてこられた消防団員及び吏

員と活発な意見交換を行う等、積極的に活動しました。報道だけでは得られない貴重なお話を聞くことができたことは、最大の成果があったものと感じております。

また、県内において地震・津波被害が発生した場合に必要な備えや活動を再認識し、各市町村において本調査の報告発表を行う等、消防団活動に対する理解を一層深めることとなりました。

この調査は、消防団幹部特別研修における石巻市桃生消防団の高橋元団長との出会いなくして行うことはできませんでした。

また、亘理地区行政事務組合消防本部の皆様、亘理町消防団の皆様、山元町消防団の皆様、石巻地区広域行政事務組合消防本部の皆様に、快諾いただいたからこそ実現したものです。

ご協力いただいた皆様に心から感謝いたしますとともに、物心両面における一日も早い復興を祈念申し上げます。

平成23年度　全国統一防火標語

消したはず　決めつけないで　もう一度

編　集　後　記

心忙しい年の瀬、本格的な冬の到来とともに師走の風は一段と身にしみて感じられます。

寒冷の時節、皆様いかがお過ごしのことでしょう。今年も残すところあと一ヶ月となりました。

2011年は、振り返るまでもなく激動の一年でした。東日本大震災をはじめ、台風や低気圧による大雨で、水害など多くの自然災害が発生しました。そこで受けた心の傷は、いまだ癒えずに私達の胸に残っています。厳しい冬の訪れとともに復興 半ばの被災地の皆様のご苦労は如何ばかりかと心苦しくただただご無事を祈るのみです。くれぐれもご自愛のほど節に願います。

さて今月11日には第17回女性消防団員活性化香川大会が盛会のうちに終了しました。参加者の皆様をはじめ、出演者の方々、立ち上げから当日までの準備に奔走され細やかな対応で会を成功に導かれた多くの地元スタッフの皆様、本当にご苦労様でした。私も昨年は地元奈良で大会スタッフとして運営に参加させて頂きましたので 皆様の頑張りに共感共鳴。香川で元気とパワーを頂きました。ありがとうございました。

（T・M）

購読募集

購読を希望される方は、㈶日本消防協会へお問い合わせください。

※　年間購読料（送料込）　2,388円

（問合せ先）　総務部企画担当　03―3503―1481

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十四巻第十一号
平成二十三年十一月五日印刷
平成二十三年十一月十日発行

編集人　岩田知也

発行所　㈶日本消防協会
東京都港区虎ノ門二―九―十六
電話　〇三（3503）一四八一（代）

印刷所
東京都千代田区外神田六―三―三
日本印刷株式会社
電話（3833）六九七一（代）

毎月一回十日発行
平成二十三年十一月十日発行
日本消防
第六十四巻第十一号

消防人の火災共済の補償が増額されました

「1000倍補償を1500倍補償にＵＰ」

B型火災共済　（加入口数は５口から25口まで）

10口の場合　掛金1000円で
火 災 共 済 金　100万円を150万円に増額しました。
風水雪害等共済金（全損で）20万円を30万円に増額しました。
『掛金は、500円～2,500円（500円単位）で加入できます。』

C型火災共済　『加入口数は、最高200口』

火 災 共 済 金　2,000万円を3,000万円に増額しました。
風水雪害等共済金（全損で）400万円を600万円に増額しました。
※　風水雪害等共済金とは、これまで災害見舞金としてお支払いしていたものです
※　加入にあたり、組合員となっていただくために出資金が必要になります。

生活協同組合 全日本消防人共済会
事務局　(財)日本消防協会内　　支　部　都道府県消防協会内

消防互助年金

『消防の仲間が支える互助年金』

消防互助年金制度は、（財）日本消防協会が消防職団員等の安定した老後の生活と福祉の向上のために第一生命保険相互会社と締結している拠出型企業年金制度です
ホームページでも詳しく紹介しています

『互助マル君』

耳より情報
消防互助年金について、詳しくご理解いただくために、担当者が説明に伺います。都道府県消防協会を通じてお申し込みください。

加入申込みは消防事務担当へ

問合せ先
●各市町村の消防事務担当係
●都道府県消防協会
（日本消防協会ホームページ）

●(財)日本消防協会　年金共済部
●生活協同組合全日本消防人共済会
〒105-0001　東京都港区虎ノ門2-9-16
日本消防会館　TEL.(03)3503-1481～5
http://www.nissho.or.jp

R100